

環境先進国

ドイツから学ぶ

吉田 浩巳

29



今後の環境問題を考える
について、ライオンランド・
ファルツ州環境情報センタ
ー所長のローランド・ホー
ン氏は州のこれからの環境
政策を三つの視点から捉え
ています。

一つ目は、建築に関する
問題、二つ目は飲食の問題、
三つ目は輸送を含めた交通
の問題です。また、別の角
度から、資源としてのエネ
ルギー問題、そしてもう一
つは気候変動を引き起こし
ているCO₂の問題です。

時代は石がなくなったから
終わったのではないよう
に、石油時代は、石油がな
くなったから終わるのでは
なく、さらに取って代わる
よいエネルギーがでてきた
ら終わりを告げます。

石油は近い将来、爆発的
に価格も高騰することが予
想されますし、石油には頼
らないエネルギー政策が必
要です。また、CO₂削減に
関しては、技術革新により、
導く電球を使えば5分の1
の電力で同じ効果を得るこ

ホーン氏の提言

3つの視点で政策推進

資源としてのエネルギー
問題は、歴史的にみても戦
争と平和にも関わってくる
問題です。限られた資源を
いかに分け合って平和に暮
らしていくかを考えていか
なければなりません。石器

ともできるようになりまし
た。また、人が来た時だけ
に点灯する電灯も有効で
す。このように、電力を使
用する側と作る側の両面か
らアプローチしていくこと
が大切です。

自動車もかつては高価で
庶民にとっては高根の花で
したが、値段もだんだん安
くなり、今では誰もが乗れ
る価格になったのと同じよ
うに、太陽電池も年々もっ
と身近になってくると思
います。そうなれば、各家
庭が電力を生むようになり、
社会の仕組みも変わって
いくでしょう。

これからの環境問題を考
えるにあたっては、技術の
進歩も勿論必要ですが、ゴ
ミ問題にしてもゴミを出さ
ないことが一番大切なよう
に、エネルギーに関しても
消費しないことが一番大切
なことを私たちは再認識し

ないといけません。そして、
次世代に負担をかけている
という共有の認識を持つと
ともに、次代を担っていく
子どもたちにも、ソーラー
自動車の体験などの取り組
みを通じて理解を深めるな
ど、環境教育を推進してい
くことも大切です。

一方で、行政は再生可能
エネルギーやごみをはじめ
とする環境問題に関して、
さまざまな条件を整えて、
人々の認識を高める政策を
推進していくことが大切
で、これらの普及を推進す
るための政府の補助金政策
についてもドイツを参考に
すべきことが多いと思いま
す。

(社団法人まちづくり国
際交流センター理事長)

毎月第2、第4、第5

水曜日掲載



ドイツの環境政策を紹介するローランド・ホーン氏
(中央) =11月5日、三重県議会